

(様式第4号) **上田市認知症高齢者等支援ネットワーク協議会** **会議概要**

|             |                                                                                                        |
|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 審 議 会 名   | 上田市認知症高齢者等支援ネットワーク協議会 <b>検討委員会</b>                                                                     |
| 2 日 時       | 令和6年1月16日 午後3時から午後4時まで                                                                                 |
| 3 会 場       | 千曲荘病院 南棟5階会議室                                                                                          |
| 4 出 席 者     | 飯島会長、遠藤委員、山寄委員、宇佐美委員、杉本委員、田中委員、<br>(公益財団法人) 認知症の人と家族の会 長野県支部 坂口氏                                       |
| 5 市側出席者     | 酒井課長補佐、大木主査、高齢者支援担当 佐々木高齢者支援担当                                                                         |
| 6 公開・非公開    | <input checked="" type="checkbox"/> 公 開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開 |
| 7 傍 聴 者     | 0人                                                                                                     |
| 8 会議概要作成年月日 | 令和6年1月19日                                                                                              |
| 協 議 事 項 等   |                                                                                                        |

1 開会

2 あいさつ (酒井課長補佐)

本日は検討委員会という形で協議会を開催した。前回の協議会で提示した希望宣言について、委員の皆様と改めて検討し、率直なご意見をいただきたい。

また本日は、日ごろ認知症の人と家族の会の活動で、家族などのパートナーと多く関わり、声をきく機会の多い坂口様にもお越しいただいた。

3 飯島会長あいさつ

4 協議事項

(1) 上田市認知症希望条例・希望宣言等について

前回の協議会で提示した認知症の宣言について検討。

委 員 認知症の人の尊厳を大事にと言うが、実際に現場で関わっている方々は、本人の意思をどのように汲み取っているのか、またどのくらい汲み取れているのか知りたい。

委 員 介護者が本人の声を発信する機会を減らしている場合もある。“何もできない”と思っていた当事者の方が、実際にピアノの演奏会を開いたケースも知っている。本人が話したり、なにかしたくても行動に移せる機会があまりないのも現状。

委 員 認知症サポーター養成講座を実施している中で“偏見をなくそう”という思いを持ちながらお話ししているが、実際に講座が終わると“認知症にはなりたくない”という感想を持つ方が多い。認知症を自分事として捉え、“なっても大丈夫”と思ってもらえるには同のように講座を開いていけば良いのかが課題に感じている。宣言が市民の皆に響くものになれば良い。

委 員 認知症のイメージは人様々。認知症の方は今後確実に増加していくが、そのことについて話し合う場を持つことが大事では。宣言をしても、関係ないと思ってる人はスルーしてしまう。認知症について考えよう、と少しでも多くの人に感じてもらえる宣言になればいい。

委 員 昔に比べて、認知症に対する理解は進んだと感じる。

今回の宣言の範囲を、高齢者全体にすると宣言の目的が曖昧になってしまう可能性がある。高齢者には認知症以外にも、多くの課題がある。

若年性認知症もあるので、今回は認知症に絞ったほうがメッセージが伝わるのでは。

また宣言して終わりにならないように、その後に続く宣言になればいい。

- 委 員 第九期の総合計画にも取り込んでいくのか。
- 事務局 第8期の計画には、本人の声を尊重することについてはあまり触れられていないので、今後の計画にも取り入れて行けたらと考えている。
- 委 員 地域の見守りや声掛けがあれば、認知症本人のやりたいことが続くことがある。  
一人ひとりが認知症について考え、知り、それが地域の理解に繋がり、それがまた大きくなり上田市全体の理解に繋がっていくといい。
- 委 員 どのような宣言にしたら、市民に響くのか、綺麗事行って終わりにしないような宣言になればよい。最終的には共生社会の実現という目的をみんな同じにして、そこにむかって話し合いを続けられたらよい。
- 会 長 今後も検討を重ねていきたい。
- 事務局 令和6年度第2回 上田市認知症高齢者等支援ネットワーク協議会が令和6年2月に開催予定となっているために、その際に本日の報告を行い、今後も認知症希望宣言について検討していく。